

## J R東海「シールドトンネルにおける安全・安心等の取組に関する説明会」

川崎市中原区説明会（会場：川崎市総合福祉センター＝エポックなかはら）速報

### シールドマシン施工の管理だけでルート周辺の住民を納得させるのは無理、 全国一のコロナ感染拡大のさ中に強行、説明と質疑時間を75分に短縮

J R東海は、8月23日夜、川崎市内での「リニアシールドマシンの安全・安心等の説明会」を始めました。23日の説明会は午後6時45分からエポックなかはらで行われましたが、告知を町内会を通してのみ行ったこと、神奈川県で新型コロナウイルスの陽性者が当日全国一に（川崎市内では473人）なったこともあって、参加者は80人程度にとどまりました。

冒頭突然に、J R東海の進行役から「コロナ感染防止のためこの会場は午後8時までの使用です」と思ってもみななかった発言があり、質問時間は結果的に40分程度に限られ、説明会では質問者が多数手を挙げているのに一方的に会議は打ち切られました。参加の皆さんは午後9時までと考えており、事前に午後8時という終了時間を明らかにせず質問を大幅に削るというJ R東海のだまし討ちに等しい進め方に、質問できなかった方々から「だったらなぜ6時に始めないのか」「もう一回ここで説明会をやれ」という怒号が飛びました。

参加人数の少ないこともあって、参加者から「多くのコロナ陽性者が出ているのから説明会は延期すべきでないのか」という意見がありましたが、J R東海からは「東京外環道の事故の調査書も出され、リニア大深度工事に関する安全対策を皆さんに早くお伝えしないと考えると説明会を開いた」などともっともらしい回答がありました。

説明内容は東京説明会（6月8日）と同様に、以下の内容でした。

- (1) 東京外環道路の陥没は特殊地盤における工事の施工管理に課題（？）があった。
- (2) シールドマシンの改良（土を取り込みすぎない、地下水や土砂の流入を防ぐ）。
- (3) シールドマシンからの振動を防ぐためスムーズな掘削の技術を考える。
- (4) シールドマシンの稼働状況をこまめにチェックする。施工中サンプリング土壌を採取し調査を行う。
- (5) 東京北品川非常口における試験掘削の結果を参考にする。
- (6) 東百合ヶ丘、梶ヶ谷非常口の大深度土砂を利用した掘削試験。
- (7) 川崎市内のルートに固いシルト層であり、東京のような特殊地盤（砂を主体とした東久留米層）は存在しない。

(8) シールドマシン稼働に影響を与える大きな石塊はルート中にはない。

(9) 事前にルート両脇40メートル以内の家屋調査を順次行う。

家屋調査協力チラシの案内時期

2021年度下期 宮前区（梶ヶ谷→犬蔵）

〃 麻生区（東百合ヶ丘→片平）

2022年度より順次

宮前区（野川本町1丁目）

高津区（梶ヶ谷5，6丁目、新作2丁目、千年、千年新町）

中原区（新城2，4丁目～等々力）

2024年度より順次

宮前区（水沢1，2丁目、汐見台）

※家屋調査の範囲は、(株)日本トンネル技術協会「地中構造物の建設に伴う近接施工指針」（平成11年2月）をもとに設定。

(10) 大深度トンネル掘削工事の順

① 梶ヶ谷非常口→被害百合ヶ丘非常口（8キロ）

② 梶ヶ谷非常口→等々力非常口

③ 東百合ヶ丘→片平非常口

**外環道事故の原因や住民の深刻被害を軽視、JR東海の説明は工事に安全を担保していない。リニア大深度工事による被害の疑いは消えない**

JR東海による質問時間の制限で、この日はたった6人しか質問できませんでした。

いかに主な質問とJR東海の回答は以下の通りです。

Q 「2008年に中原区新城のシールドトンネル工事が原因で道路陥没事故が起きた。リニアのルートに近い」

A 「平成19年、20年と事故発生。最初はシールド掘削中、2回目はシールドマシン内の石塊を取り除いた際に起きた。リニアは大深度だし地質が安定している。大きな石塊は存在しない。たとえ石塊を取り込んでもマシンの規模は大きいので地盤に影響はない」、「何か工事に支障があった場合はシールドマシンを止めて調べることにする」

Q 「家屋調査は誰がやるのか。どういう風に調べるのか。所要時間は？」

A 「専門の会社が調査する。2～3人で調べる。所要時間は、家屋内と外回りをやるとき

は4時間、外回りだけだと2時間」

Q「シールドマシンによる振動の予想は？振動の状況は報告するのか？」

A「太い軸のシールドジャッキ使い振動を抑える。掘削時の摩擦が振動の原因であり。大きな摩擦を生じさせないよう工事を管理する。報告の機会を設けたいと思う」

Q「大深度だから地表への影響ないから家屋調査はやらないというのがJ R東海の方針だった。外環道事故によって、地表への影響ありと認めたと解釈していいのか」

A「安全な工事を確保するために家屋調査をする」(明確な回答はせず)

Q「等々力非常口工事で時々ものすごい振動を感じる。一人が苦情を言ってもJ R東海は対応しない。地域で一致して対応を求めるよう被害の共有化を図りたい」

A「振動発生を抑制するために地域との連携ができなかったことを反省している」

Q「等々力緑地にある釣り池の水面の変化を測定してほしい」

A「釣り池は表流水や浅深度地下水がたまったもので、大深度の地下水の水位が地表に関係することはない。水面の水位を測定することは考えていない」

以 上